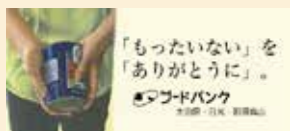




2021 年度
**事業
 報告書**
 ダイジェスト版



とちぎ
 VOLUNTEER
 NETWORK
 ボランティア
 ネットワーク





私たちが目指す社会

SOSを出している人の人生によりそい、その人の困難を皆で解決する社会
現在の課題を先送りせずに、自らの手で解決に取り組む人であふれる社会

私たちの使命

とちぎボランティアネットワークは、
栃木県内に住む人の自発的な社会活動を促進し、
ボランティアの仲間とともに
創意工夫のあふれる郷土を作ります。

困窮者が激増。必要なのは、助け合いと制度作り

コロナ前の生活保護者数は2018年には約209万人。しかし2021年には約204万人に減少しています。一方で、社会福祉協議会による貸付の受給者は135万件にも上っています。今後、貸付の返済期限が迫れば、債務不履行で生活保護受給者が急増するはず。また、日本に滞在する約200万人の外国人は、技能実習生や留学生など非正規・不安定の雇用がほとんどで、景気やコロナ蔓延の動向で失業・困窮する人が今後も増加すると予測されます。外国ルーツの人は教育、社会保障、労働環境、住宅環境など生活課題が生じており、公共サービスを要求するソーシャルアクションが必要です。

ボランティアの神髄は「アマチュアリズム」

ボランティアの長所は「個別の支援」「柔軟・臨機応変」です。市民活動がNPO/NGOのプロ化・組織化が進む方向に進むだけでは、社会問題の解決はできません。イイ人をたくさん作る必要があります。現代は「プロに任せ」の社会とも言えます。結果、自分自身に問題が降りかかってきたときだけ右往左往する人をたくさん作っているかもしれません。本会は市民ボランティアとともに社会問題の発見、対応、解決方法の模索を行なうことで、直接アマチュアが社会課題を理解し、解決していく運動を勧めることが大切と考えています。制度化は効率性と合理性の世界。しかし、人間の営みの中で、特に“育む、世話する、看る、伝える、教える”という営みは合理化・効率化は当てはまりません。個別対応、その人(たち)の個別の状況に付き合う人(良きアマチュア=ボランティア)が必要なのです。

こんな個別対応の営みの集積が、共同体のたすけあいの文化、共同体の体力です。自分たちでできることは自分たちで。できないことは国家に。時代ともに社会課題が変化しますが、その解決のために正面から、市民のボランティアと共に取り組んでいます。

これからの栃木のSDGs達成のために、とちコミ

またNGO/NPOが十分な能力を持つためには、セクター全体の信用が欠かせません。本会はNGO/NPOへ個別の応援とともに、セクター全体の信用力を高め、民から民への支援という「寄付の文化」を創るとちぎコミュニティ基金の運営にも力を入れています。



フードバンク・総合相談支援

コロナ禍において「困窮者」と「困窮者を助けたい人」を結ぶ受け皿として機能しました。食品配布会では、県北、宇都宮と合わせ 1,929 世帯へ食品を届けました。日々の困窮者の訪問は前年度比 1.28 倍（1,658 件）に増加。ボランティアと社会福祉士 3 名を配置し、制度では解決できない多種多様な事例に対応し、社会問題を解決する下地作りができました。また、社会福祉士養成のための実習生の受け入れを開始し、1 名の実習生を受け入れました。



とちぎコミュニティ基金

～地域の SDGs と人・モノ・志金の循環

今期、配分した助成総額は 5,770 万円になりました（うち休眠預金事業が 1985 万円）。子ども SUNSUN プロジェクトや、「サンタ de ラン」などの 3 つの合同ファンドレイジング、6 つの助成を行いました。休眠預金の実施で、県内 NPO からはとちコミへの注目度が上がった。前期から行ってきた「とちぎのミライをつくる大会」は助成金活用の報告会のみならず、県内の主要な NPO の交流の場として重要な役割を果たしました。



災害救援・復興支援

栃木県内には福島からの避難者が推定 1700 人います。福島県から「復興支援員設置事業」と「生活再建支援拠点事業」の 2 つの事業を委託し、訪問活動等を行いました。また、避難者の生の声を次世代に伝えるために「原発避難 10 年目ラジオ」を月 1 で放送しました。教訓と未来へのメッセージをともに考える番組内容となっています。



ユニバーサル就労ネットワーク

働きづらさを抱えているすべての人の出口の一つとして、ユニバーサル就労研究会を立ち上げました。10 月にユニバーサル就労ネットワーク栃木の発足会を行い、参加した行政職員も関心と期待が高いことを実感しました。しかし、認定就労訓練事業所の登録数が少なく、現状では利用者と企業のマッチングが困難なことが判明。受入れ企業の開拓により 5 社増やすことができましたが、更に多種多様な受入れ業者が必要です。



NPO 活動推進センター

ラジオや広報誌を通じて県内の NPO の活動や SDGs 達成のための取り組みを広報しています。また、大学生を中心にボランティアやインターンとして多くの若者が関わり、ともに社会課題の解決に向けて考え、身近にできるアクションをしています。ボランティア主体の新しい活動も徐々に生まれはじめ、コロナ禍ではありますが人とのつながりをあきらめず活動しています。



とちぎVネット県北事務所

県北事務所はコロナ禍の影響で子ども食堂など対面による活動が停滞していましたが、チャリティウォーク県北やクリスマスウォークの開催で 30-60 代のボランティアの寄付集めが成果を上げています。次期は 3 年間の日本財団の子どもの第 3 の居場所事業の助成金も獲得しました。高齢の既存スタッフの世代交代と助成事業終了後に自主運営ができる寄付金を集める体制づくりが課題です。

フードバンク・総合相談支援

日本では毎年522万トン以上の食べ物が、まだ安全に食べられるにも関わらず廃棄されています（食品ロス）。フードバンクは、そうした食べ物を生活困窮世帯などにお渡しし、有効に使ってもらう活動です。

ただ食品を渡すだけでなく、総合相談支援もおこなうフードバンクは全国でここだけ。Vネットは独立型社会福祉士事務所として、フードバンクうつのみやと共同で困窮者の生活再建をしています。フードバンク県北、フードバンク日光はボランティア中心に活動しています。行政や社会福祉協議会、地域包括支援センターなど数多くの機関と連携した支援実績を積み重ねてきました。「個別SOSへの対応とともに社会課題の解決を図る」部門として自立的な活動が定着しつつあります。

フードバンクうつのみや

寄付いただいた食品

40.1 t

提供した食品

39.3 t

相談回数

1658回

542世帯に支援しました。複数利用が増えています。

昨年比 1.3 倍

Topic

奨学米プロジェクト



学齢期の子どもがいる低所得の母子家庭等に毎月定期的に米を提供するプロジェクト。児童相談所や市役所の子ども家庭課との連携もできました。

23世帯（のべ60回）に提供！

内訳：奨学米 524 kg、食品 486 kg、野菜配送 41 回

フードバンク県北

寄付いただいた食品

7.9 t

提供した食品

6.7 t

相談回数

595回

社会福祉協議会と連携しています。複数利用が多いです。

昨年比 1.2 倍

Topic

定例食品配布会



コロナ禍で立ち直りができない人が多く、長期の困窮状態が続いています。食品配布会を毎月第2土曜日に実施し、徐々に関係性ができ、支援のきっかけを探れるようになっていきます。

フードバンク日光

寄付いただいた食品

3.1 t

提供した食品

3.8 t

相談回数

536回

食品配布会を4回行いました。

Topic

ボランティアで



個別支援と、行政と連携し行政窓口への食品提供も行っています。スタッフは全員ボランティア。ボランティアの中でも支援に対する考え方は様々ですが、話し合いながら活動をしています。

もったいないを、ありがとうございます。ご支援をお願いします！

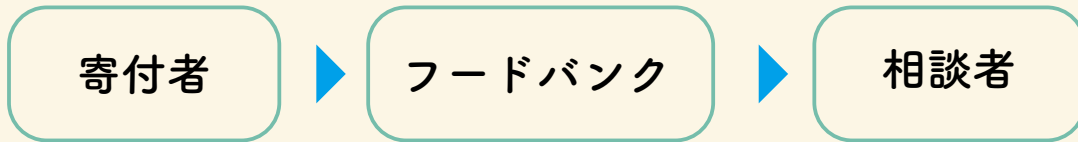
チャリティウォーク



今回で9回目となったチャリティウォークは、県北21キロ（黒羽～ながわ水遊園）、宇都宮22キロ（宇都宮～大谷）の2カ所での初開催でした。寄付金だけでなく、社会課題を知り、解決するための仲間を増やしていくことがこのイベントの目的でありゴールとなります。たくさんの参加者、ボランティア、寄付者の皆さんのおかげで大盛況のイベントとなりました。毎年10月に行っています！詳しくはとちぎコミュニティ基金のホームページから、「チャリティウォーク」の特設サイトをチェックしてください。



食品が届くまで



いろいろな方法で

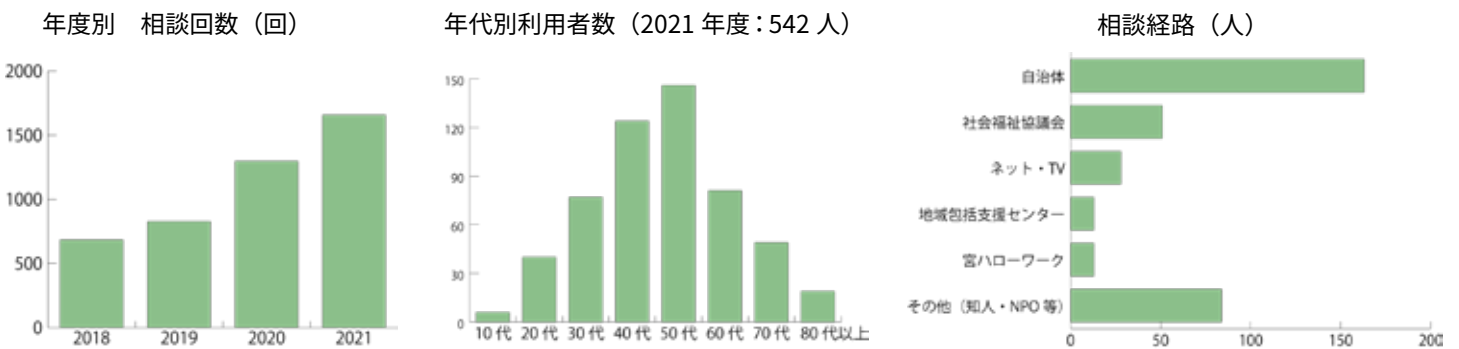
- ・事務所に
- ・きずなBOX
- ・フードドライブ

ただ渡すだけでなく

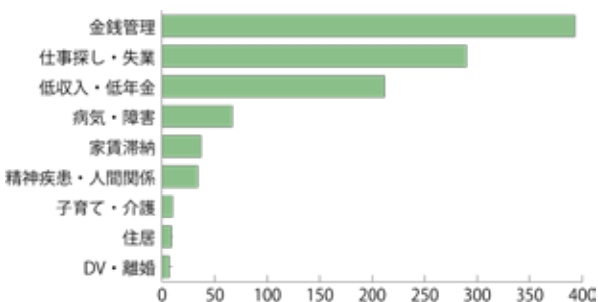
話を聴き、次に必要なステップを一緒に考えます。必要に応じて、医療や地域、仕事、教育などの社会資源を紹介します。

相談者の状況まとめ（宇都宮）

年々相談者の数は増えていますが、今期は特にコロナ禍の影響やフードバンクの認知度が高まったことにより増加しました。社会福祉協議会や市役所、ハローワーク等、他機関からの紹介で利用する方も多いです。困窮している理由が複雑で、一度の利用では生活が立ち直らない方は複数回利用しています。また、年代で見ると50代が146世帯、40代が124世帯と、働き盛りや子育て世代の利用や、前年比10代、30代、80代以上の利用も増加しました。ただし、記録は相談者の代表者の年代であるため、子育て世帯の困窮⇨子どもの貧困も視野に入れる必要があります。継続的な支援のためにも、多様なボランティアや職員の個性、柔軟性を活用していくことが求められています。



主な利用理由 (複数回答: 人)



身近な SOS

・**UOさん (男 40代・宇都宮市)**。生きる気力も無く2週間ほど食べていない。電気、ガス、電話料金滞納している。一時就職したがすぐに失業。社協や町役場では最後には「働け、働け」と言われた。民生委員には困窮状況を知られたくない。⇒米 2 kg 食品 3 kg 支援。

・**AKさん (女 20代・宇都宮市)**。6人家族。母親はベトナム人。20代の姉と50代の母は病気で働けない。家族が多く生活費がかかるため困窮してしまった。⇒米 10 kg 食品 14 kg 支援。

食品でできる支援



■ 対象となる商品

- ・賞味期限が1か月以上ある食品
- ・例えば缶詰やレトルト食品、調味料、乾麺
- ・印字ミスや箱のつぶれ、余剰在庫、農協・農家の規格外品など

■ 寄付を受け付けている場所

- ・直接事務所にお届け
- ・きずなボックスに入れる (施設等に設置されている食品回収箱)
- ・フードドライブ (イベントなどで食品の寄贈を募る)

とちぎコミュニティ基金

とちぎコミュニティ基金は、地域の未来を私たち市民で創るインフラです。地域の課題に対し、人・モノ・志金・アイデアをあつめ、課題解決と豊かな栃木創りのために実行します。一般市民、企業、NPOなど様々な人が関わっています。とちぎには①プロジェクト（調べる、あつめる、つくる）、②合同ファンドレイジング（あつめる）、③助成（くばる）の3部門があります。



子ども SUNSUN プロジェクト



7月にオンライン+対面での総会を実施しました。9月には子ども SUNSUN プロジェクト助成金を公募選考し7団体に110万円を配分しました。定期円卓会議は10月（親と子の居場所事業）と3月（外国ルーツの子どもの貧困調査報告）の2回実施しました。今期は「調査を行う時期」として、外国ルーツの子どもの貧困について「ゆめSDGs助成」の調査助成を活用し

て調査を行い、3月の定期円卓会議で内容を公開しました。また「那須塩原子どもの貧困撃退♡円卓会議」が立ち上がり調査を行っています。

助成総額

768万円

2021年度

サンタ de クリーン&ウォーク

第6回「子どもの貧困撃退♡チャリティサンタdeラン」。今年は「クリーン&ウォーク」として開催しました。事前イベントでは、高校・大学生による「子どもの貧困特別授業」動画発信・二荒山神社でサンタdeご祈祷・街頭募金等を行いました。当日は250人のサンタが集まり、街中をキレイに。参加した高校生からは「子どもの貧困を考えるきっかけになった」との言葉もあり、協力と関心の輪が広がりました。

助成総額

577万円

2021年度



■寄付総額 5,770,732円 (351人)	N) 青少年の自立を支える会 21,488円
N) とちぎボランティアネットワーク 1,171,067円	きよはらこども食堂キャラバン 74,134円
N) 子どものみらい応援隊 257,856円	ちゅんちゅんこども食堂 236,368円
N) だじょうぶ 724,465円	一社) えんがお 28,280円
公財) とちぎYMCA 383,287円	宮っこ元気食堂 207,068円
N) うりずん 360,919円	たんぼぼの会 109,825円
N) トチギ環境未来基地 76,282円	N) やぎハウス 82,904円
N) FB うつのみや 594,105円	事務局経費 (25%) 1,442,683円

コロナ支え合い基金&47コロナ基金

コロナ禍の子ども・家庭を応援する市民団体の支援を強化するために、合同寄付キャンペーンを昨年5月から開始し、13のプログラムへの寄付を募集し、総額8,859,851円(287件)の寄付が集まりました。また、全国のコミュニティ財団と連携して開設した「47コロナ基金」では全国からの寄付を栃木分助成として、一般助成を4団体、医療助成を7団体(非公開)に配分しました。3月には報告会と交流会を行いました。

助成総額

885万円

2021年度



■寄付総額 8,859,851円 (287人)	N) FB うつのみや 1,391,036円
N) だじょうぶ 581,192円	公財) とちぎYMCA 421,992円
N) うりずん 574,792円	一社) えんがお 430,792円
N) トチギ環境未来基地 426,792円	N) キーデザイン 439,455円
N) オオタカ保護基金 418,792円	N) アニマルセラピー協会 361,855円
一社) 栃木県若年者支援機構 433,192円	N) そらいろコアラ 607,402円
N) チャレンジドコミュニティ 514,792円	N) もうひとつの美術館 367,455円

たかはら子ども未来基金



2017年から矢板市の篤志家からの寄付で「たかはら子ども未来基金」を創設し、学生インターン助成を実施しています。「境遇や生育環境に関わらず、全ての子どもや若者が等しく人生を拓く機会を得られること」が目的です。8～2月のうち12日以上活動に対して助成しました。



助成総額

88万円

2021年度
8団体・学生10人

- ・N) キーデザイン (宇都宮) : 不登校児のフリースクール
- ・一社) 宇都宮市学童保育センター (宇都宮): 学習支援・野菜栽培の企画
- ・学びステーション鹿沼 (鹿沼) : 放課後の子ども向けの体験活動運営
- ・N) 風車 (矢板) : 不登校児者・障害者との交流体験
- ・N) 足尾に緑を育てる会 (日光) : 若者と足尾をつなげる企画・運営
- ・N) 和音 いのくら児童クラブ : 子どもとふれあい・お出かけ企画
- ・N) うりずん (宇都宮) : きょうだい児向けのイベント企画
- ・一社) こども食堂ノエル (宇都宮): こども食堂・配布会の運営・広報

花王ハートポケット倶楽部・地域助成



花王(株)では社員有志による社会貢献寄付プログラムがあり、栃木地区助成では栃木県で活動するNPOや市民活動団体のうち「心温まる・地域で必要とされる活動」に助成し、15年目になりました。17の応募のうち5団体が採択されました。3月に贈呈式と前期の助成団体の報告会を合わせて実施しました。



助成総額

60万円

2021年度・5団体

- ★20万円 みんなの学び場おやま
- ★10万円 もおか環境パートナーシップ会議
NPO 法人みんなのカタチ
子育てほっとネット
NPO 法人子どもとなり佐野

休眠預金活用 ひとりにしない、させない助成

休眠預金の活用により、様々な困難を抱える人たちを支援したり、だれもが住みやすいまちをつくらする栃木県内の活動を助成金で応援する仕組みが2021年から始まりました。とちコミは、休眠預金等活用法に基づく資金分配団体に採択されました。一団体あたり50万円～500万円を助成しました。

助成総額

1,985万円

2021年度

- N) フードバンクうつのみや「コロナ禍対策きずなセット提供プロジェクト」
- N) とちぎみらい with ピア「子育て世代人生の夢再構築プロジェクト」
- N) 那須高原自然学校「コンソーシアム申請」>「自然体験を取り戻そう!!」
- N) サロンみんなの保健室「心身に不安のある方の無料健康相談支援」
- ～とちぎの未来を背負う子どものために～
- N) 風車「子どもたちのための無料の学習支援」
- N) キーデザイン「不登校相談窓口支援と居場所つなぎ支援」
- N) 子どもの育ちを応援する会「子どもや保護者の支援」



佐賀水害応援募金



7月に九州の佐賀県であった水害に対し募金活動をおこない、武雄市の災害救援活動を行うおもやいボランティアセンターに助成しました。佐賀県は3年前の水害の復興途中で再度被災しています。遠隔地であり直接の救援活動ができないので寄付を贈りました。

助成総額

23万円

2021年度

ウクライナ難民支援募金



2月24日に起こったロシアのウクライナ侵攻による「ウクライナからの難民救援」のための募金活動を開始しました。集まった寄付金は日本Y M C A同盟を通じてヨーロッパのY M C A同盟経由で各国のY M C Aの救援活動に使われます。次期も継続して募金活動をします。

助成総額

49万円

2021年度

災害救援・復興支援

次世代に伝える。原発避難 10 年目ラジオ ●福島県委託事業



放送回数

6 回

毎月第 2 日曜に「次世代に伝える。原発避難 10 年目ラジオ」を放送。出演した避難者の生の声を聴くことで、復興とは何か、原発避難の問題を考える機会となりました。動画でも配信し、3 月には 3 時間の特別番組を実施しました。1 月から大学生インターンがコーディネーターとして番組制作に奮闘中です。

■ゲスト

- ① 71 歳双葉町から下野市への避難者。
- ② 66 歳茨城県結城市 / 南相馬市小高区の避難者。
- ③ 40 代小山市 / 福島市出身の避難者。
- ④ 66 歳真岡市 / 富岡町出身。当時の障害者更生施設長。
- ⑤ 73 歳小山市・喫茶店フジ。
- ⑥ 76 歳小山市、福島県富岡町から避難原発建設メンテランスに従事。
- ⑦ 50 代宇都宮市 / 福島県福島市からの自主避難者。
- ⑧ 60 代栃木市 / 福島県川内村から避難。
- ⑨ 60 代栃木県栃木市在住 / 福島県双葉町から避難。
- ⑩ 71 歳双葉町から下野市に避難 & 70 代双葉町から栃木市に避難 & 清水菜名子さん (宇都宮大学国際学部准教授)

ラジオブログ抜粋 「絆」を崩した賠償金。本当の「思いやり」とは (2022/2/13 放送)

ゲスト：福島県双葉町から栃木市に避難した榊原比呂志さん

・・・全部で6回もの避難を繰り返す中で、様々な苦悩があった。おにぎりだけの生活が続き食料等の支援物資が欲しかった。とある避難所に訪れたところ「双葉町から来た人には物資は出しません」と言われた。住んでいた場所の違いだけで、あっさり断られたことが悲しかった。また、いわき市で入院していた病院から退院するときに、他の患者から「賠償金をもらいやがって」「早く双葉に帰れ」などと罵倒されたという。原発事故で元の生活が奪われたり、家族を亡くしたりした人へ、東京電力が支払う賠償金。それが妬みの対象にされる。そのため、榊原さんは栃木に来てしばらくの間、双葉町出身と知られないように生活していた。

ぜひ
お聴きください！

Youtube



ミヤラジ

FM77.3

毎月第 3 日

17:00 ~ 18:00



福島からの避難者支援 ●福島県委託事業

避難者への訪問活動

毎月 2 回 30 人

相談窓口の設置

週 3 回開設

広報誌『とちぎ
暮らしの手帖』

1500 部発行

栃木県内には福島からの避難者が推定 2000 人います。この世帯に対して復興支援員 (非常勤 2 人) は避難者の訪問支援活動をしました。全戸訪問した名簿で毎月 2 回、要継続支援 30 人を対象に実施しました。また、生活再建支援拠点事業は避難者が来訪し相談できる窓口として週 3 日開設しました。

その他、広報誌『とちぎ暮らしの手帖』を 3 回発行しました。次世代に震災・避難の「個人の記憶」を「社会の記録」として伝えるために、取材記事やラジオ報告等を掲載しています。

まけないぞうプロジェクト



まけないぞう (2021)

259 頭

51,800 円

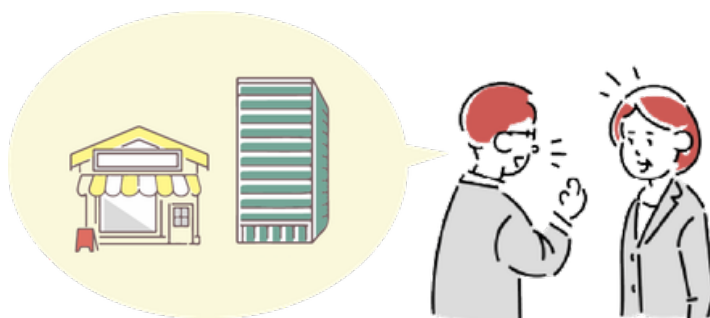
ユニバーサル就労ネットワーク栃木

本会、ふれあいコープ、とちぎコープの3者を中心に、労働者協同組合、独立型社会福祉士事務所、弁護士などを加えて、2019年9月からユニバーサル就労研究会を毎月1回開催してきました。今期は9月に「ユニバーサル就労ネットワーク栃木」を発足しました。10月17日には発足会を行い、参加した行政職員の関心と期待が高いことを実感しました。ネットワークは「中間的就労事業所」を県内に増やしていくために企業・事業所への営業を行う中間支援団体です。本会の独自財源と企業・事業所からの出向の営業担当者を迎えて、企業の開拓、内部の受入態勢の整備、伴走支援の人材育成、広報、資金調達などを行っています。



ユニバーサル就労ネットワークとは？

「働きづらさ」を
抱えた人と
仕事をつなぎます



ユニバーサル就労は、理由を問わず、働きづらい状態にある人を職場に迎え入れる取り組みです。栃木県内ではまだまだあまり取り組まれていません。先進地である千葉県では2014年から「ユニバーサル就労ネットワークちば」が活動を開始し、これまでに100人が就労しています。この取り組みを栃木県内で開始したいと思い、2021年、「ユニバーサル就労ネットワーク栃木（仮）」を設立しました。



SDGsの「働きがいも経済成長も」

「みんなで取り組む」

SDGsの中にも、誰もが働ける場をつくること「働きがいも経済成長も」という項目があります。これは、福祉だけが、企業だけが、行政だけが個別に対応していても実現できません。さらにSDGsの17番目の「みんなが力を合わせ、一緒に」とりくむことが必要です。

私たちが「つなぐ」役割に。

—ネットワークと中間支援—

そのためには、複数の企業・事業所とネットワークを作り、多くの「働きづらさを抱える人」の伴走支援をし、両者を適切に「つなぐ」役割—中間支援組織（センター）—が必要です。みんながいきいきと働ける働きがいのある栃木を創るために、みなさんもぜひユニバーサル就労ネットワーク栃木に参加してください。

ご支援をお願いします

個人、企業の皆様

団体会員：12000円（1口以上）

個人会員：3000円（1口以上）

個人マンスリー：月1000円

企業の皆様

・認定訓練事業所を募集しています。また、まずは見学をさせていただける企業も募集しています。企業の社会貢献として、ぜひご検討ください。

・受入には様々な形があります。ご関心のある方はお問合せ下さい。

■運営委員会

○コラボワーク（企業組合とちぎ労働福祉事業団） ○とちぎコープ生活協同組合 ○一般社団法人 栃木県若年者支援機構

○認定NPO法人とちぎボランティアネットワーク ○公益財団法人とちぎYYMCA ○一般社団法人 社会福祉士事務所にじみる

○八幡山法律事務所 ○社会福祉法人ふれあいコープ ○NPO法人フードバンクうつのみや ○一般社団法人 南栃木社会福祉士事務所

■事務局 / 栃木県宇都宮市埴田2-5-1 共生ビル3F 担当：小澤、菊池（とちぎボランティアネットワーク内）



NPO 活動推進センター

ボランティアとNPOの啓発・普及

みんながけっぷちラジオ

FM77.3 毎週火 19:00~20:00



放送回数
52回

2017年3月からはじまった「みんながけっぷちラジオ」。宇都宮コミュニティFM ミヤラジで毎週火曜 19時から放送しています。大学生のラジオパーソナリティと一緒に番組をつくりあげています。動画配信などの新しい活動や、学生自身の成長と本会関係者の変化があります。

■番組テーマとゲスト※抜粋

- ・「アートは行為を通じて心の中を開く作業」クリエイティブ・レインボーP
- ・「コロナ禍のボランティア 挑戦して得たもの」とちぎYMCA 大学生ボランティア
- ・「街中の身近な保健室」NPO 法人みんなの保健室
- ・「留学生に聞く 台湾の子供の貧困」宇都宮大学4年生
- ・「ボランティアによる学校 自主夜間中学」とちぎ自主夜間中学
- ・「フードバンクを応援する新聞店」宇賀神新聞店



しもつけ自然のアルバム



放送回数
6回

2020年10月から「SAVEJAPAN プロジェクト」の助成を受け、下野市自然に親しむ会と本会との協働による環境保全プロジェクトを実施しました。本会は特にSDGsのための行動変容を促すための環境保全、生物多様性の5分間番組をインターン生3人とともに制作し、ラジオ（FM ゆうがお）、動画で配信しました。

■『しもつけ自然のアルバム』番組テーマとゲスト

- 1 「森林博士に聞いてみた！地球温暖化と森林について」大久保達弘（宇都宮大学農学部教授）
- 2 「ハエの生態を知ってハエを好きになろう?!」伊村務（ナチュラリスト）
- 3 「農業とコウノトリふゆみず田んぼとは？」穂山（小山市農政課）、野口（小山市自然共生課）
- 4 「身近な昆虫食ーカメムシ、ケラ…食べたことある？」栗原隆（栃木県立博物館）
- 5 「奥日光のシカ対策」松本翔一（自然公園財団日光支部）
- 6 「ミミズの知られざる生態について」南谷幸雄（栃木県立博物館）



とちコミ SDGs 通信

隔月発行のとちコミ SDGs 通信では、栃木版・日本版の持続可能な社会に向けての目標にまつわる取り組みを1つずつ特集しています。また、「SDGs 社長インタビュー」、新聞の切り抜きを掲載した「しみん情報玉手箱」や、多様なテーマでの書評「市民文庫」、「みんながけっぷちラジオ報告」など、栃木県内のホットな情報をまとめています。会員のほかに、SDGs 企業 160社にも送付しました。



発刊部数

4200部

取材や、掲載、購読に関する
お問合せは事務局まで！

V レンジャー

「キャンプで救う子どもの貧困」をテーマに、子どもの「体験の貧困」をなくすために活動する若者ボランティアチーム、V レンジャー。2019年夏から活動を始め3年目の活動になりました。8月にキャンプ、2月に凧揚げ企画を予定していましたが、新型コロナの緊急事態宣言の影響でどちらも中止となりました。ですが、ボランティア募集のための活動説明会や、他団体主催の企画への参加、子ども食堂のボランティアなど工夫して活動しました。新聞等のメディアにも取り上げられ、活動の認知度が高まっています。新しく大学生が14人増え、現在計30名で精力的に活動しています。

企画会議
(月1~2回)

23回



足尾に緑を育てる会
子どもとの植樹企画

1回



子ども向けお便りと
動画の作成

4回



子ども食堂
ボランティア(12回)
のべ20人



子どもの部屋たんぼぼ
合同オンライン企画

6回



県北Vネット スマイルハウスボランティア会

子どもの居場所



コロナ禍により、子ども食堂は4-8月弁当、9-10月中止、11-12月は食堂開始、3月からお弁当提供と、状況により活動が変化しました。ボランティアベースでの運営であり、困難もありながら工夫して活動を続けてきました。年度末になり「日本財団子ども第3の居場所事業」の助成金を獲得し、次年度の運営体制の構築に着手しました。

ヤスイの食卓

若者の自活力向上「ヤスイの食卓」では、大学生や若者と一緒に料理をして食べました。「初めて味噌汁を作った」という人も。



竹藪から竹林にプロジェクト

放置されている竹林をボランティアの手で整備しています。月に1回程度、10代から80代が参加しています。



会員で支える。寄付で栃木を良くする。

私たちの活動は、皆様からの寄付で成り立っています。あなたの寄付が、困っている多くの人を助けます。

会員の方には、年6回発行の会報誌『とちコミ SDGs 通信』をお送りします。

特に支持会員は、年1回の総会での議決権があります。継続的にご支援いただき、

運営に深く関わってくださる方を募集しています。本会は認定 NPO 法人のため、

賛助会費とご寄付は寄付控除の対象となり、寄付額の最大約 50%が税金から還付されます。

ご存知ですか？

寄付金額の最大 50%
税金が戻ってきます！



支持会員

議決権あり&通信

5,000 円 / 年

団体会員

議決権あり&通信

20,000 円 / 年

賛助会員

とちコミ通信

3,000 円 / 年

一般寄付

活動全般を応援する！

1 口 3,000 円～

お振込み先

とちぎボランティアネットワーク

銀行 栃木銀行 馬場町支店 普通 9918701
名義：(特非)とちぎボランティアネットワーク
理事矢野正広

郵便局 口座番号：00360-4-38111
加入者名：とちぎボランティアネットワーク

クレジット <https://www.tochigivnet.com/donate/>



とちぎコミュニティ基金

銀行 栃木銀行 馬場町支店 普通 9918708
名義：(特非)とちぎボランティアネットワーク
理事 矢野正広

郵便局 口座番号：00110-8-281282
加入者名：とちぎコミュニティ基金

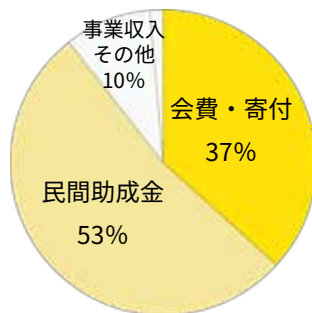
クレジット <https://tochicomi.org/donate/>



組織・財政（2021）

■会員数 535 人、職員 16 人、理事 14 人、監事 2 人
■ボランティア：V レンジャー 40 人、まけないぞう 2 人、新聞切り抜き隊 2 人、フードバンク相談 5 人
その他単発ボランティア多数

■会員総会 (1 回)、理事会 (3 回)、ボランティア事業創出・企画会議 (2 回)、職員会議 (24 回)、ケース検討会 (24 回)、若者会議 (2 回)、V レンジャー会議 (23 回)、新聞切り抜き隊 (48 回)、とちコミ SDGs 通信編集会議 (6 回)、ラジオ会議 (12 回)



うち、ボランティアによる時間の寄付 = 3415 時間 (301 万円分) でした。ありがとうございます！

■収入 65,363,353 円

- ①会費・寄付 24,145,890 円：37%
- ②民間助成金 34,373,149 円：53%
(うち休眠預金活用事業 26,107,424 円)
- ③事業収入 5,980,925 円：9%
- ④その他収入 863,389 円：1%

■支出 65,716,251 円

- 事業費 60,399,551 円 (内人件費 17,536,799)：92%
- 管理費 5,316,700 円 (内人件費 1,560,000)：8%

2022 年度事業報告書ダイジェスト版

2022 年 8 月 10 日発行 編集・デザイン 宮坂真耶



住所 〒 320-0027 栃木県宇都宮市埴田 2-5-1 共生ビル 3 階

TEL 028-622-0021 FAX 028-623-6036

V ネット HP <https://www.tochigivnet.com/>

Mail info@tochigivnet.jp

とちコミ HP <https://tochicomi.org/>

Mail info@tochicomi.org